



持ち手の取れた優勝カップ

校長 瀧嶋 克己



【運動会練習風景（大玉送り）】

柿の実が色付く季節となりました。運動会練習も全て終えて、いよいよ明日（10月1日）運動会本番を迎えます。

運動会全体練習の中で優勝杯・準優勝杯返還の練習を行った時、全校児童に話した内容を膨らませて紹介します。

本校の優勝カップの持ち手は、片方が取れています。なぜ、いつ取れてしまったのかは不明です。毎年、強力接着剤で修理をしたり、テープを付けたりするなどして、その場を凌いできました。専門の方にもお願いしてみましたが、取り付けは難しいとのことでした。子供が使う物だから新たに購入しようかとも試みました。

しかし、改めてこの優勝カップに刻まれている文字を読みこのカップを使い続けようと思いました。正面側には、「練馬区立小竹小学校優勝」後ろ側には、「創立記念 1960. 4. 1 寄贈 古田 雄二」とありました。

そうです。このカップは古田様からの寄贈品なのです。また、小竹小学校、創立以来優勝した応援団長の手から手へと受け継がれてきた代物なのです。今、この文章を読んでいる方の中にもこの優勝カップを手にした方がいらっしゃるかと思います。これからも大切に使用させていただきます。

今年の運動会のスローガンは、「全力で栄光の道をつき進め」です。この優勝杯を目指してがんばって欲しいと思います。

■本校の組体操の取組

学校の学習は、周りの友達と関わり合いながら、自己の学習を高めていきます。

組体操も友達と真剣に練習を重ねていく中で、できなかった技ができるようになったり、相手と支え合い、励まし合ったりしながら、安定した大技が表現できるようにしていきます。特に「技能」面では、体幹を意識して腕立てや斜め十字の姿勢を維持したり、バランス感覚が保てるようになったりするなどの効果が表れます。「関心・意欲・態度」面では、安全に気を付けながら、友達と共に技ができたときに達成感や一体感を味わうことができます。「思考・判断」面では、各種の技のポイントを考えながら、友達と運動することができます。

組体操には練習や発表の場を通して、体力面・心の面の成長が見られ教育的な意義があり、本校でも取り組んできました。

その一方で組体操の技が年々巨大化・高層化していて、事故やけがのリスクが大きいという側面があります。新聞報道等でも大きな事故が報道されています。

学校は、安全第一でなければなりません。本校では、技の見直しを行い立体ピラミッドや3段タワーなど事故やけがのリスクが大きいと思われる大技を行わずに実施いたします。

また、組体操に限らず、今回の運動会も安全を最優先に実施していきます。

